

## V 草地の更新管理

### 1 近年の気象の変化

#### (1) 夏季の高温・多雨の傾向

近年、気象が変化していると感じていませんか？別海アメダスのデータで振り返ってみます。比較対象は 1993 年～2002 年までと、2013 年～2022 年までのそれぞれ 10 年間の平均です。まず、気温を比較してみると、5 月～10 月までの農耕期に平均気温が約 0.7℃上昇しています。また、最高気温は約 1.9℃上昇し、温暖化の傾向が見られます。

さらに、6 月～8 月の夏季に注目してみると、平均気温は約 1.0℃、最高気温は約 1.9℃、最低気温は約 0.6℃それぞれ上昇しており、夏季の気温上昇が顕著になっています。

一方、降水量を比較してみると、6 月～8 月までの降水量で 98.5mm の差があり、年間降水量が年々多くなっていることもわかります。この期間の日最大降水量に注目すると 12.1mm の差があり、短時間にまとまった雨が降るようになっています（表 V-1）。

表 V-1 別海町の気温と降水量の比較（気象庁 HP より作成） ※気温は各期間における平均

(°C)		1993～2002	2013～2022	差	降水量(mm)	1993～2002	2013～2022	差
平均気温	5～10月	13.1	13.8	0.7	5～10月	796.7	867.3	70.6
	6～8月	15.1	16.1	1.0	6～8月	373.8	472.3	98.5
最高気温	5～10月	17.7	19.6	1.9	日最大降水量(mm)	1993～2002	2013～2022	差
	6～8月	19.4	21.3	1.9	5～10月	46.7	54.4	7.7
最低気温	5～10月	8.9	8.9	0	6～8月	42.8	55.0	12.1
	6～8月	11.5	12.1	0.6				

#### (2) 土壌凍結の状況と牧草の萌芽期

続いて、土壌凍結の状況を見てみましょう。5 月 1 日時点で土壌凍結していた回数は 1992 年～2001 年の 10 年間では 6 回、2012 年～2021 年の 10 年間では 0 回と大きな差が見られました（表 V-2）。

このことから、近年の土壌凍結期間が短くなり、牧草の萌芽期（2023 年：4 月 15 日、平年値：4 月 20 日）が早まっていることにも関係していると考えられます。

表 V-2 別海町における土壌凍結と積雪の状況

（普及センター調べ）（回）

西暦（年）	12月1日		4月15日		5月1日	
	凍結	積雪	凍結	積雪	凍結	積雪
1992～2001	10	5	10	2	6	0
2012～2021	9	3	8	4	0	0

#### (3) 1 番草収穫時期の気象

6 月～7 月の降水量の状況を過去 10 年遡ると、6 月 18～25 日に降雨が多くなっていることがわかります（図 V-1）。

記憶に新しい 2022 年は、連続した降雨があり、収穫作業が進められない状況でした。2023 年は天候に恵まれ、収穫作業は順調に進みました。

年次変動はありますが、1 番草の安定的な収穫のため、気象リスクを考慮した収穫体系を検討してはいかがでしょうか。

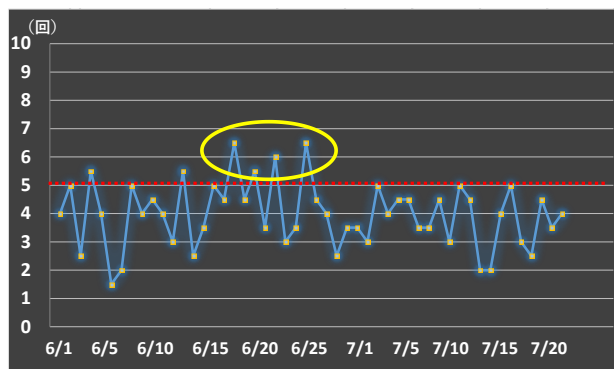


図 V-1 0.5mm/日以上降水量があった回数  
2013～2022 年の別海町＋中標津町  
（気象庁 HP より作成）